

発行所
津 奈 木 公 民 館
芦 北 郡 津 奈 木 町
電 話 (78) 5400番
平成18年9月1日発行
第370号
○右の題字は「徳富蘇峰さん」
の額を写したものです。

津 奈 木



優勝 倉谷チーム

**六十回を迎えた
盆 野 球 大 会**

真夏になれば気温の上昇だけではなく町民も熱くなる盆野球。何だ「かんた」といながらも六十回を重ねるという事は立派な伝統行事に定着しています。甲子園の高校野球とまではいかないが熱き想いは一つとあります。高校野球Ⅱ盆野球と結びつけるのは早計かも知れないが、甲子園の高校野球八十八回目を数える野球大会と六十回目を数える盆野球。過去においては「七連覇」の記録もありますが最近では三連覇はなかなか実現出来ないうです。昨年は三連覇（倉谷）がかかっていましたが実現出来ませんでした。

今年は川内、町中、丸岡地区等のレベルアップが目立ったようでした。

一 言

海洋スポーツの季節が到来し、本町でも真夏の祭典の競り舟大会が野球大会に続いて開催されました。当方も津奈木海龍の一員として会場設営等で、又地区の選手として参加しました。各地区選手の力漕ぶりが観客を魅了する場面もあり、来年の開催が待ち遠しく思えます。

今から二十数年前、私が中学生の頃は木船に乗り込み練習を行っていました。時代は変わり、木造から樹脂船になりバドルの統一化が計られても、変わらないのは「漕ぎばきつ」につきる。これこそが競技人口の減少に起因しているのかもしれないが、それ故に、完走の達成感と勝利の喜びは代え難いとも言える。

息を合わせ、力を合わせて進む競り舟は、スター選手を必要としない数少ない競技ではなからうか。

町外では、漕ぎ手の若さに圧倒される事もあり、世代交代が課題の一つです。若手の参加を切望する季節でもあります。

（津奈木海龍の一員）



「神 社」



「神 社」

津奈木中2年（現3年）松 本 沙津紀 津奈木中2年（現3年）野 崎 愛

子ども美術館 (39)

（十七年度文化協会奨励賞作品）

ALT紹介



八月七日付で教育委員会に英語指導助手（ALT）として着任しました。自己紹介と津奈木町や日本の印象について語ってもらいました。

私の名前は、ティフィン・サラです。出身はカナダ、ヴィクトリア生まれで今年の五月にヴィクトリア大学を卒業しました。二十三歳です。

津奈木町の住まいは私が望んでいた以上の家でも大きくて綺麗で、ここに住むことができ本当に感謝しています。カナダの私のアパートより素敵です。私は子どもの頃からずっと日本に行きたいと思っていました。私の祖母はハワイへ引越す前に熊本県から来ました。私は日本の文化や日本語を話せるようになることを楽しみにしています。

芦北・水俣 童話発表大会

夏休みに入つて翌日に津奈木町内小学生の童話発表大会が開催されました。各小学校の代表が熱弁をふるってくれました。低学年は長い話をよく覚えていました。

読書ベストテン

図書館では、一年間に何冊ぐらい読んでいるか調べてみました。昨年は千七百冊も読んでいました。今年は四百十冊でした。冊数は昨年に比べれば半分ぐらいの冊数でした。

17年度貸出数ベスト

1. 山本 咲	410冊
2. 山本 咲	288冊
3. 横本 晴香	262冊
4. 渡辺あおい	206冊
5. 野崎 せら	200冊
6. 前坂 なお	195冊
7. 遊亀明日香	187冊
8. 浜田たかこ	169冊
9. 尾上ひかる	155冊
10. 塩村 さき	150冊



津奈木町代表

た。なかには壇上で緊張して暫く考え込む場面もありましたが、そこは練習を重ねているので思い出して最後まで立派に発表しました。次の三名が町代表として松本成央さん（二年）、村上朔哉君（四年）、遊亀広康君（五年）が水俣大会で発表してくれました。三名共津奈木大会とは見違える程立派な発表振りでした。あと一歩というところまで上達していました。

—津奈木町の食育スローガン—
**「つなぎたい
朝ごはん
元気の輪」**
津奈木町食育推進検討委員会

編集後記

七月下旬の集中豪雨ではまさにバケツをひっくり返したような不気味な様相を呈し、多くの方が、大雨情報に釘付けされた状態ではなかったでしょうか。惨事に至らずに胸をなで下ろしたかと思うと、今度は一転記録的な猛暑続きにうんざり。こんな時は、無性に自然の涼が恋しくなります。秋の気配が忍び寄る九月には、気持ちいい清々しい日々を期待したいものです。

